

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年	2	選択
担当教員			
鈴木 耕太郎			
G (現代ビジネス学科)	L (基礎科目)	CS (地域)	101 (基礎・入門科目)

授業のねらい（概要）	本学が位置する「群馬県」とはどのような場か、説明できるでしょうか？ 歴史や文化、風土、産業——詳しく説明しようとしても、なかなか説明できない／わかっていない点も多いのではないのでしょうか。本講義では、地域学の一例として地元・群馬をさまざまな視点・角度から見つめ直します。その過程では、群馬の隠された魅力を再発見することもあるでしょうし、地域として改善すべき課題に直面することにもなるでしょう。単に群馬のことを知るだけでなく、いま自分の生活がどのような場を基盤としているかを認識することが本講義のねらいとなります。		
授業計画	第1回	【遠隔】イントロダクション・「群馬学」とは 受講上の注意／今後のスケジュール／評価方法などを確認します。 「群馬学」を通して、地域学の可能性について確認します。 また、第5回（課題）の「街角遺産」に関しても説明します。 予習：群馬に関するイメージや情報の収集（30分） 復習：イントロダクションの確認ならびに地域学的重要性について確認（60分）	
	第2回	【遠隔】群馬・上州の成り立ちとその過程（1）——繁栄する古代・群馬に古墳が多い理由 古代・群馬は朝廷から離れた東国の中でも大変栄えていた土地でした。群馬の地名の由来なども踏まえながら、群馬の古代について、その歴史的な背景を学びます。 予習：群馬県内に古墳が多い理由について、情報を収集し推察してもらう（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第3回	【遠隔】群馬・上州の成り立ちとその過程（2）——武士の時代（中世・近世）の群馬 武家勢力が力をのばしてきた中世、上州は東国における一つの要所でした。それは近世・徳川幕府時代にも引き継がれていきます。その歴史的背景を学びます。 予習：「歴史に名高い新田義貞」とは一体どのような人物だったのか、詳しい情報を調べてくる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第4回	【遠隔】群馬・上州の成り立ちとその過程（3）——群馬の近代化と養蚕業 明治時代に入り、西欧列強諸国とわたり合うために急速に近代化がすすめられた日本。その中でも群馬県の養蚕業が果たした役割と歴史的背景を学びます。 予習：なぜ富岡に日本で初めての官営の製糸場が造られたのか、情報を収集し、その理由を推察してもらう（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第5回	【課題】群馬を知るための実践（1）——「街角遺産」の発見と評価 観光ガイドブックにも掲載されていないような、私たちの身近にある文化財を「街角遺産」と見なし、それらを見出し、評価を与えるまでの過程について学習します。なお、第14回目の講義にて実施するグループ発表会に関連する内容となっています。 予習：Mellyで配布する当該講義の資料をしっかりと読んでおくこと。 そのうえで、身近にありつつも、その由来や詳細が良く分からない石碑や珍しい建物、遺跡・史跡を1つでも探し出し、できればその歴史的背景も調べてくること（90分） 復習：「街角遺産」の概念に適合するものを2～3点探し出し、リスト化しておくこと。またそれぞれの由来や歴史、そこに残されている意味について600字程度の文章にまとめておくこと（120分）	
	第6回	群馬の日常（1）——過去になりつつある養蚕中心の暮らし 群馬県は生糸生産量日本一ですが、近年は市場の規模が縮小され、養蚕を営む家も激減しています。養蚕が盛んだったころの家の構造や産業を学びつつ、現在の課題について考えます。 予習：生糸の生産量・養蚕を続けている家の数、日本が海外に輸出している生糸の量と額、ならびに海外から輸入している生糸の量と額について、調べてみる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第7回	群馬の日常（2）——「粉もの」中心の食文化の謎 群馬県の郷土料理といえば、「おっきりこみ」「焼きまんじゅう」「水沢うどん」など小麦粉を用いたものが有名です。ではなぜ小麦の食文化が育まれたのでしょうか？ その理由に迫ります。 予習：群馬の郷土料理の特徴とは何かを考えてくる。また同じ県内でも地域によって違いはないかを調べてくる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第8回	【課題】群馬の日常（3）——自動車中心社会のゆくえ 群馬県は自動車保有率が日本一で、いわば自動車中心社会です。それは、公共交通機関が発展していないことの表われでもあります。いったいなぜ自動車中心社会となったのか、そして今後どうしていくべきかを考えます。 予習：Mellyで配布する当該講義の資料をしっかりと読んでおくこと。 そのうえで、以下の内容をきちんと考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。 Q 1：群馬県は公共交通機関が未発達と指摘されることが多い。なぜ群馬県は公共交通機関が未	

	発達なのか？ Q 2：逆に公共交通機関が発達しているところはどのようなところなのか？ 複数あげたうえで共通点をあげること。 Q 3：群馬県は自動車中心社会といわれているが、もし自動車の保有が一家に一台と制限されたら、今の群馬県民の暮らしはどう変わると思うか？ Q 4：自動車中心社会のメリットとデメリットとは何か？ それぞれ3点以上あげること。 Q 5：Q 3であげた「デメリット」について、どうしたら解消できるのか？ (90分) 復習：上記Q 1～Q 5を踏まえて、最終的に群馬県の交通について、800～1000字程度で自由に論じた文章を作成する (90分) 第9回 群馬の文化 (1) —— 祭礼／祭りをめぐる文化 「祭り」は日本全国どこでも行われていますが、各祭りを見ていくとそこには地域の特徴が反映されていることが多いことに気づきます。群馬県内で行われているいくつかの祭りを例に、どのような特徴がみられるのかを検討していきます。 第10回 予習：群馬県内の祭りで、特に有名なものとしてはどのようなものがあるのか、またいつから・どのようにしてその祭りは始まったのか、調べてくる (60分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) 群馬の文化 (2) —— 現代文化としての「上毛かるた」 1947年 (昭和22)、アジア・太平洋戦争後の混乱がまだ色濃く残っていた時代に「上毛かるた」は生まれました。誕生に至る経緯と県民に広く受容されていった背景に迫ります。 第11回 予習：群馬県出身の受講生は「上毛かるた」との出会いを思い出しておく。県外出身者はそもそも「上毛かるた」とはどのようなものかを調べておく (60分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) 【課題】群馬の文芸 (1) —— 群馬の昔話・伝説を探る 昔話や伝説といった民間説話 (民話) は、この群馬にも数多く残されています。それらを紹介しつつ、なぜこうした民話が作成されたのか、その背景を考えます。 第12回 予習：Mellyで配布する当該講義の資料をしっかりと読んでおくこと。 そのうえで、以下の内容をきちんと考え、自分なりに答えられるようにしておく。 Q：群馬県内を舞台にしたに昔話や伝説とはどのようなものがあるのか？ 舞台となった場所および話の内容を簡潔にまとめること。最低でも2話は調べてくること。 (90分) 復習：自分が調べてきた話の中から1話選んで、なぜそういった昔話や伝説が作られた／語り継がれてきたのか、その理由を考察して800～1000字程度の文章を作成する (90分) 群馬の文芸 (2) —— 「羊太夫」伝説と『神道集』 「上野三碑」の一つ、多胡碑の中に記されている伝説上の人物「羊太夫」。彼にまつわる伝説は幾つか残されていますが、その中でも『神道集』という書物に伝わる伝説に焦点を当て、その世界を探求します。 第13回 予習：多胡碑の全文と、そこに記されている意味を調べてくる (60分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) 群馬の文芸 (3) —— 群馬県出身文学者から見る日本近代・現代文学 田山花袋や萩原朔太郎など、群馬県は数多くの文学者を輩出しています。彼らの功績の幾つかを紹介しつつ、彼らが生み出す作品の世界と郷里・群馬との関係について考えます。 第14回 予習：群馬県出身の文学者としては誰がいるのかを調べ、できれば作品にも触れる (90分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) 群馬を知るための実践 (2) —— グループ研究発表会 あらかじめ提示していた課題に関するグループ研究の発表会を行います。 ※なお、受講人数次第では、グループ発表会から、個人のレポート発表会へと変更します。 第15回 予習：発表会に向けた最終的な準備、役割分担を決めておく。発表会に向けて予行練習しておく。 (120分) 復習：他のグループの発表内容で気になった点について、自分なりにさらに掘り下げて調べてみる (90分) 群馬学を振り返る——「グンマー帝国」から抜け出すために 半期の「群馬学」を振り返りつつ、今後の群馬県はどうあるべきかを考えます。 予習：これまでの講義内容を振り返り、自分なりに総括しておく (60分) 復習：群馬県はどうあるべきか、どういった方向へと向かうべきかを考える (90分)
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	地元・地域の魅力と課題とを客観的に評価することができる能力を身につけることができます。さらに、さまざまな角度から地域 (群馬) を見つめることで、当該地域活性化の方策について様々な視点から提示できるだけの力も養成することができます。
到達目標	①群馬という地域を多角的に検討し、魅力と課題の両側面に気づくことができるようになること。また魅力をどう活かし、課題をどう克服するかの糸口を各自が提示できるようになる。 ②本講義の内容をもとに、群馬県外の他地域を見つめ返すことができるようになる (地域学の視点をもって地域を捉えることができるようになる)。 ③自分と地域との関係を正確に理解できるようになる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	毎回、講義開始から5分程度を用いて、前回講義の質問や疑問、受講生から寄せられた意見などについて補足説明を行います。小テスト実施の際は、次回講義で解答例を配布します。
履修上の注意	上記のねらいにも記しましたが、雑学的な群馬の知識を学ぶ講義ではありませんので注意してください。また、群馬のことを学びますが、群馬県外出身の方が不利になるような内容にはしませんので、その点は安心してください。 また、本講義では原則的に、毎回、講義終了15分前からリアクションペーパーを書いてもらいます (成績評価に関係します)。講義中に疑問に思ったことや感じたことなどは積極的にリアクションペーパーに記入してください。ただし、1～3回ほど、リアクションペーパーの代わりに小テストを行います (受講人数次第で回数は変わります)。小テストは事前予告なく実施するので、復習は必ずしておいてください。 なお、講義受講に際しては最低限のマナーを守ってください (受講態度が著しく悪いと判断した場合は、厳

	しく注意し、場合によっては退室をしてもらうこともあります）。
成績評価の方法・基準	講義内でのリアクションペーパーおよび小テスト（30％）、グループ発表（10％）※、期末考査（60％）により総合的に評価します。 ※なお受講人数によっては、グループ発表から小レポートに変更する場合があります。
教科書	特に指定しません。
参考書・教材	群馬県史編さん委員会『群馬県史』（群馬県）。 丑木幸男ほか編『群馬県の歴史』（山川出版社、2013年）。 近藤義雄『群馬の歴史と文化』（みやま文庫、2001年）。 千田稔ほか『京都まちかど遺産めぐり』（ナカニシヤ出版、2014年）。
備考	受講人数次第で講義内容等を変更する可能性もあります。その際は受講生の皆様に事前にお伝えします。 【追記】 2020年度は第5回・第8回・第11回を課題研究とします。それぞれ直前の講義（ただし、第5回に関しては第1回そして第4回の2回）に課題の内容を指示します。課題についてはMellyでの提出となりますので、ご注意ください。 また、情勢（遠隔授業の再延長など）次第ではテスト形式の期末考査からレポート提出に変更する可能性があります。また小テストの実施を見送ることも考えられますので、ご承知おきください。
教員との連絡方法	メールおよびMellyでの連絡をお願いします。